



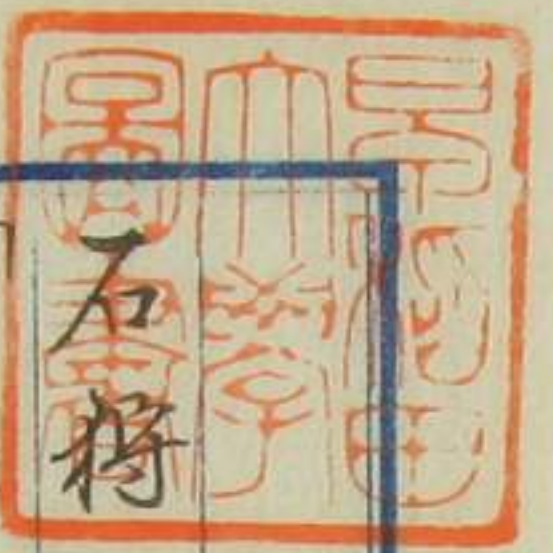
用石吏

ホロナイ石炭山報告書 圖層

4300



114
A 4025



「ホロナイ」石炭山報告書

石將河ノ南岸對雁村ヨリ三里半斗ノ處ニ
 ホロムイ川アリ此流ニ溯ルテ九二里ニシテ兩澗
 合流スル地ニ至ル其右ナルハ即「ホロム井」本流ニシテ
 其左ナルヲ「イクシベツ」ト曰フ「イクシベツ」川ニ上ルテ
 十二三里ニシテ「ホロナイ」ト違ス是レ即石炭山ノ
 谷口ニシテ本流ノ南岨ニ在リ

「ホロナイ」谷口ヨリ奥ニ入ルテ九一里半斗ノ處ニ本流
 アリ又小舎跡アリ是レ石炭脈ノ多ク露頭セル地
 ナリ之ヲ「ホロナイ」右炭山トス

但「ホロム井」川ハ遙カニ南方ニアリ「ホロナイ」ヲ距ルテ遠
 シ故ニ之ヲ「ホロム井」石炭山ト稱スルハ穩當ナラス
 其他「イクシベツ」本流ニ其北岨ノ「ホロナイ」ト

大正十一年四月
隈侯爵郵寄

石 使

べツ」等石炭發見ノ地多シト雖其性質「ポロナイ炭
ニ及ハズ而「ポロナイ」地位モ亦運輸ニ便ニ最
着手スベキ利アレハク之ヲ細記スル「左ノ如シ
ポロナイ小舎跡假令早川村ト名ク是レ早川長十郎ノ創ニテ側ニ
兩澗合流ス此處ニ元枕アリ一昨年「ライマシ」氏
ノ所建ニ水面ヲ抜ク「九五百尺ナリ
其左右兩澗トモ石炭脈現出ス右谷ニ現ルモノニ十
餘左谷ニ出ツルモノ九十七八
我輩ガ枕ヲ建テ甲乙番號ヲ記セシモノ五十一アリ
圖中、黒点ハ昂枕ノ印ナリ但シ莫ノ炭脈ハ斯ク多キ「アラザレドモ
一脈起伏各處ニ現ル、ガエハ其數ヲ増スナリ
石炭ノ性質各脈異同アリト雖撰シテ論スレハ頗ル
美ニシテ岩内産ニ勝レリ

脈ノ厚サ厚薄同シカラスニ尺ヨリ七尺ニ至ルモノアリ
但シ厚サニ尺以下ナルモノハ摺テ、番號ヲ附セス
脈ノ厚薄ハ圖中ニ明ナリ
傾斜ノ度ハ七度ヨリ六十度ノ間ニアリテ四十度内外ノ
者最多シ而シテ脈ノ方向ハ都テ東北ニ走レリ
ライマシ氏ノ測量ニテハ此地ノ水早止ニアル炭量一十萬
噸アルベシト云ヘリ
又「イツシキリ」川此川ハ「イツシキリ」南嶺ニ枝流ニシテ「ポロナイ」南方ニ屈曲
シテ流ル其川「ポロナイ」川ヨリ三里下ニアリ
ノ上流其川ヨリ九四里下ニ「ポロナイ」ノ上流ニ當リ石炭露見ノ
處一二箇所アリ是レ亦「ポロナイ」ト表裏ヲ為シ其同
系ナル「明」ナリ此邊ノ地形ハ晴天ノトキ「タック」山
ニ登リ四方ヲ眺望スレハ「歴々」目下ニアリ
按ニ「ポロナイ」ノ石炭山ヲ開クニ「イクシベツ」川ノ南嶺ニ

開拓
江口鉄道ヲ布キ「ポロナイ」方ヨリ堀創シムルハ素ヨリ當
然ノ理ニシテ地利ニモ妨ナシト雖「イツシキリ」川ヲ涵リ
「タックブ」山ノ奥ニテ適宜ノ地勢ヲ見立抗口ヲ開キ
北方ニ向ヒ次第ニ掘進ミ「ポロナイ」山ニ至ルモ亦一
ノ妙エ支ナリ「イツシキリ」川ノ方ハ地勢平坦ニシテ鉄道
ヲ鋪クニ便ナリ加之若シ以石炭ヲ室蘭ニ運出サム
トスルトキハ其運輸ノ距離近キ利アリ然レハ橋十
分ノ測量ヲ經サレハ其損益ヲ精算スルヲ難シ
「ポロナイ」石炭山ヨリ蜀雁村迄五十里 鐵道ヲ鋪キ支
ヨリ川舟ニテ石炭ヲ石狩河ロニ下ス法ハ已ニ愚見ヲ陳
シ以テ呈進セリ今之ヲ略ス
「イクシベ」本流其北岸ノ石炭山並ニ空知ノ石炭山其他
處々ニ蔓延スル者實ニ廣大ナリト雖先ツ「ポロナイ」山ヲ

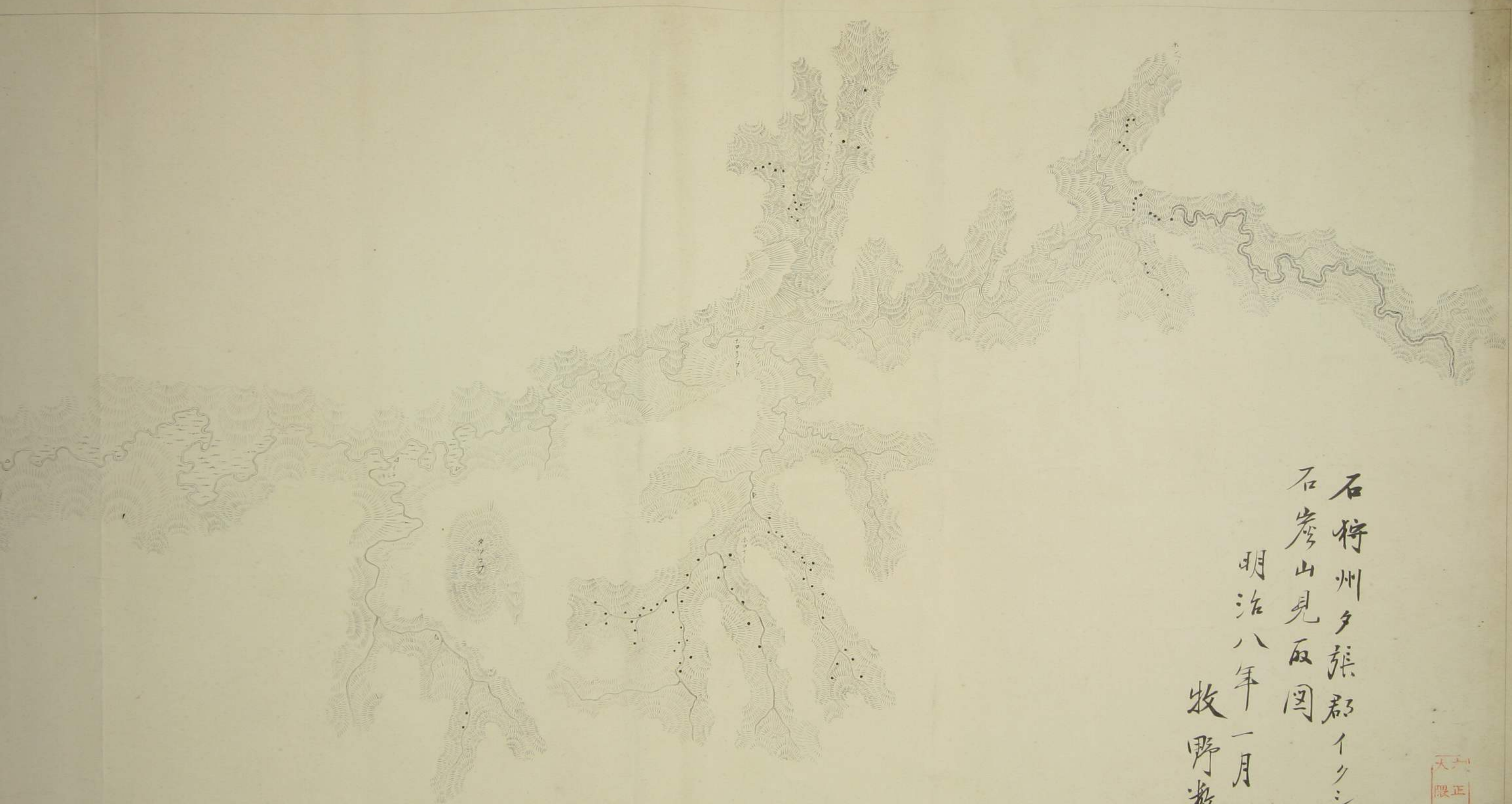
開采シ而シテ後之ニ及テテ順序トス故ニ其記載ハ他
日ヲ期スベシ

明治八年五月 大島圭介識

○ 附屬ノ圖六枚アリ石狩河本流ヨリ「ホロム井川」「イクシ
ベ」川「ポロナイ」石炭山「イツシキリ」川其他「ノッハオマナイ」
「ポレベツ」等ノ石炭地方ヲ略記ス是レ劣生等ノ昨明
治七年秋巡歴セシ地形ノ大概ナリ
但シ圖中ノ黒点ハ石炭脈發見ノ地ヲ表シ其番號
ヲ附セシモノナリ

開
石
吏

開
抄
仕



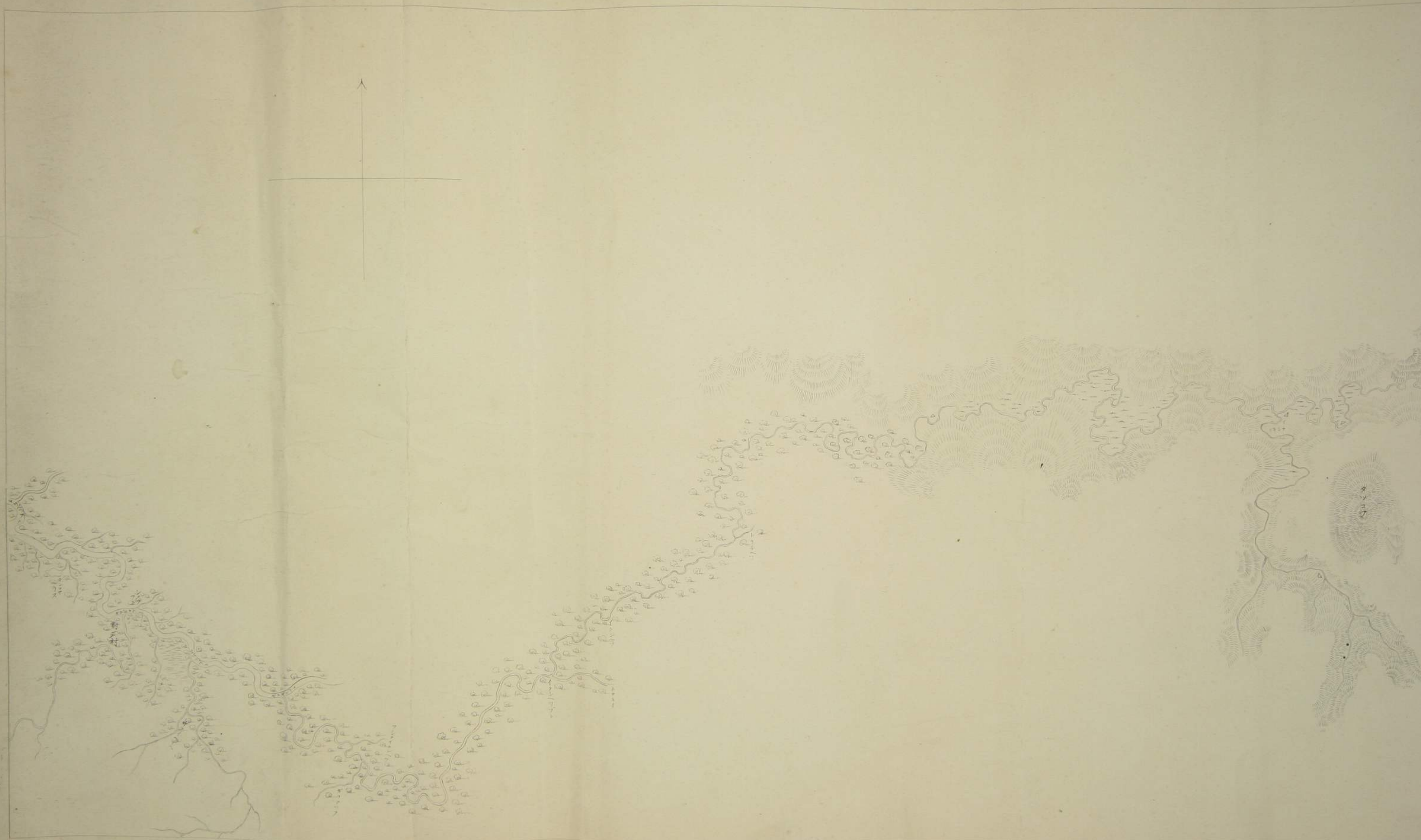
石狩州夕張郡イクシベツ
石炭山見取図

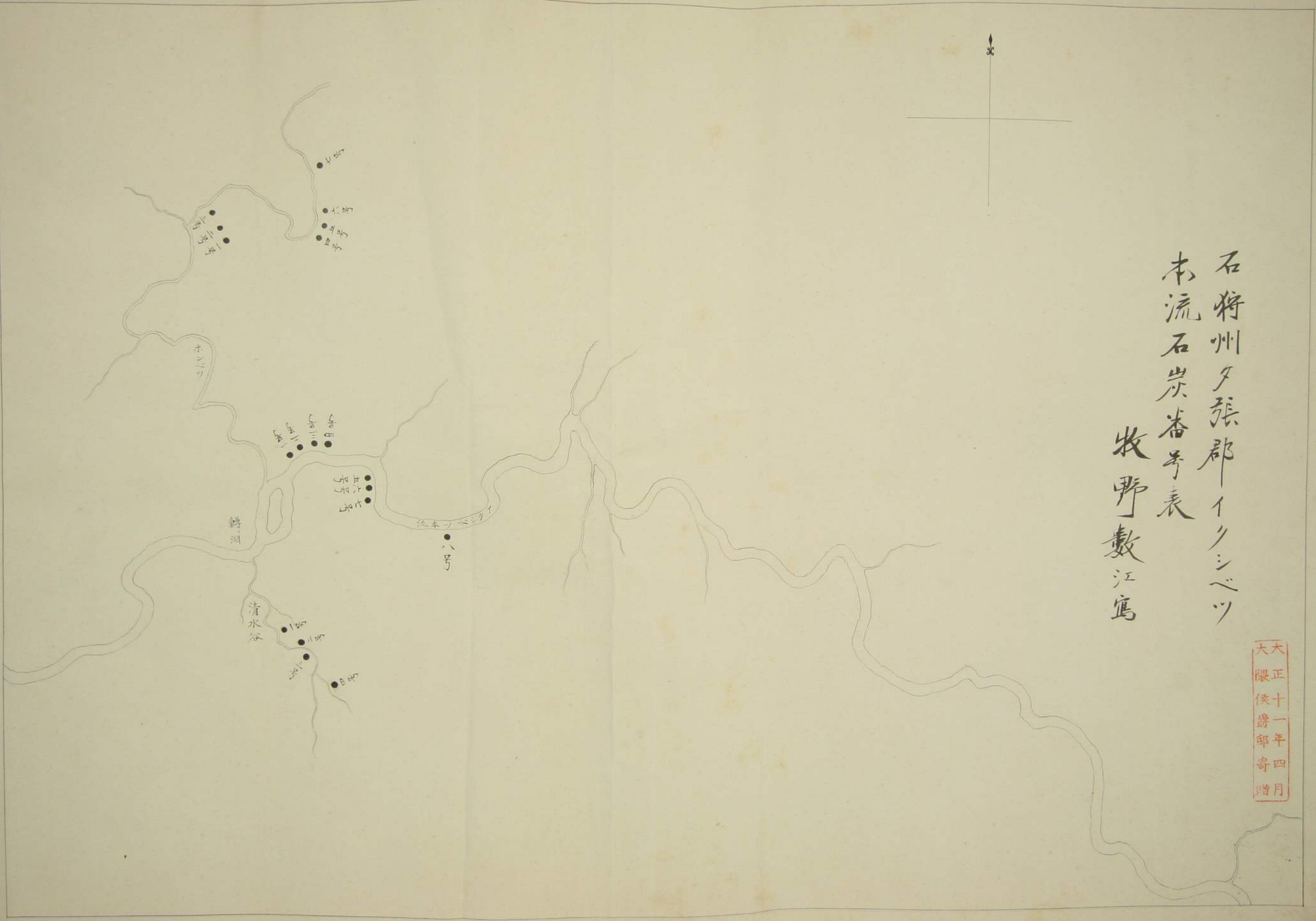
明治八年一月

牧野教江寫

大正十一年
限侯爵
昭和



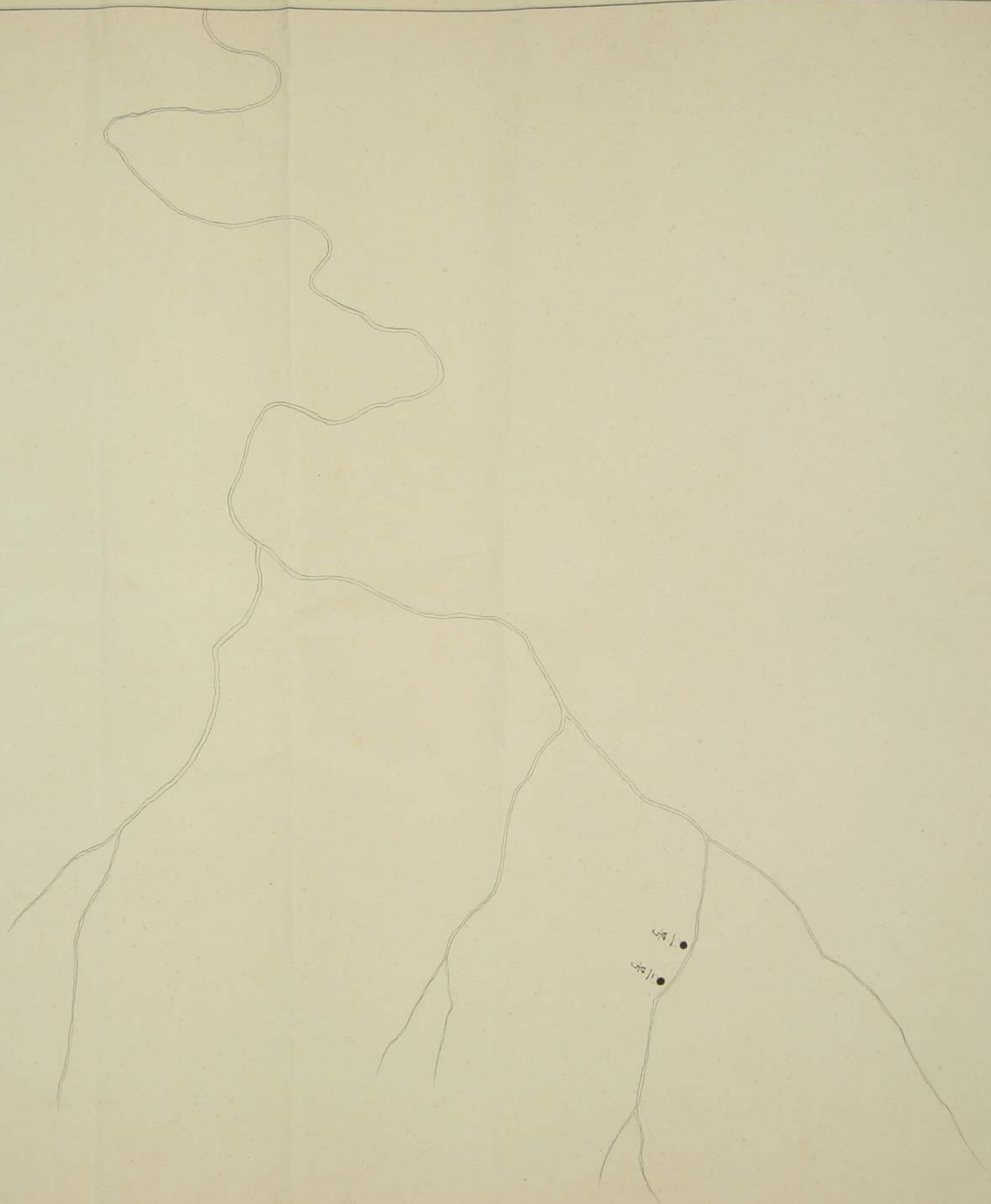




石狩州夕張郡イクシベツ
 本流石炭番号表
 牧野數江寫

大正十一年四月
 大隈侯爵邸寄贈



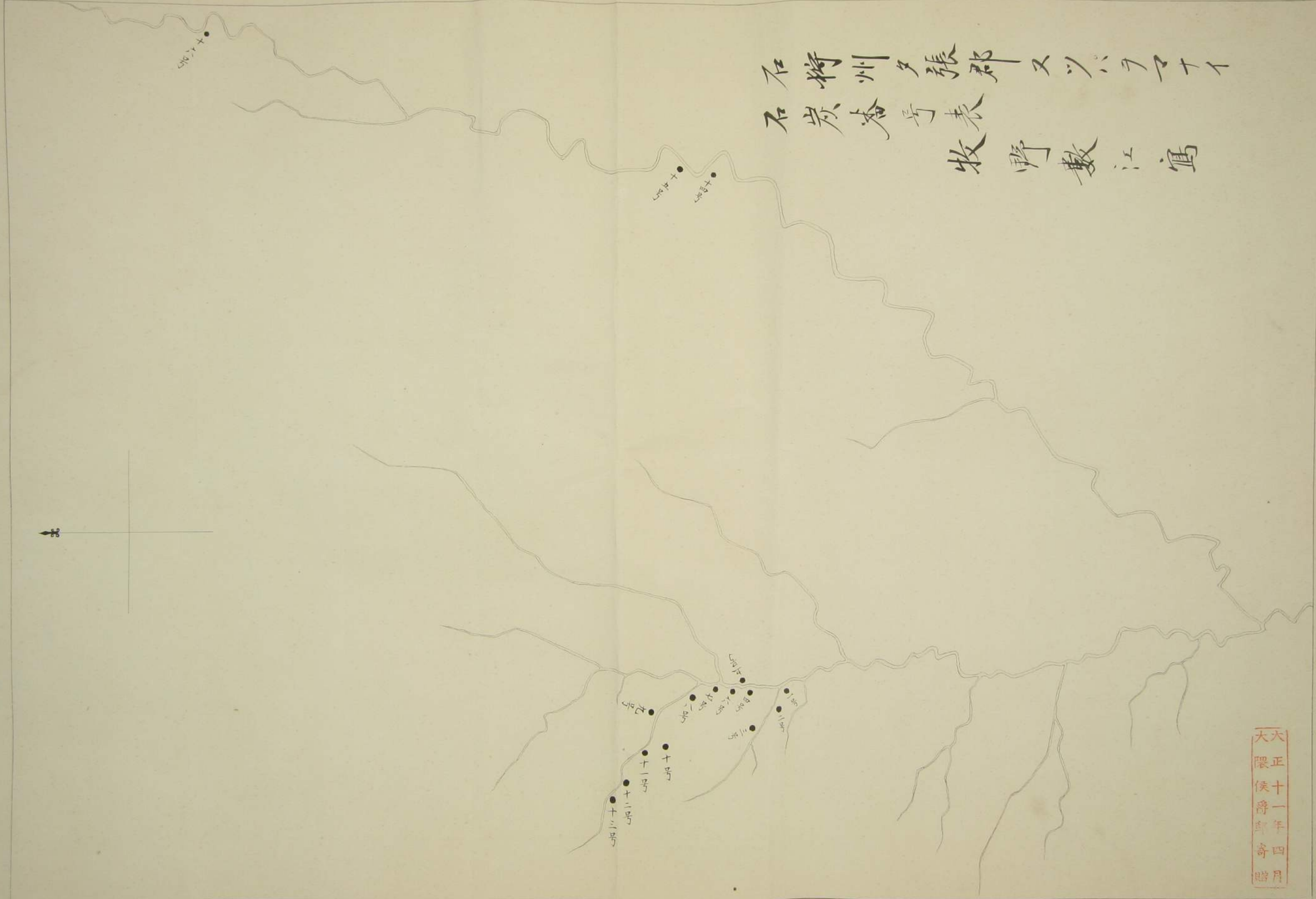


石狩州夕張郡下千キシリ
石炭番号表

牧野數江寫

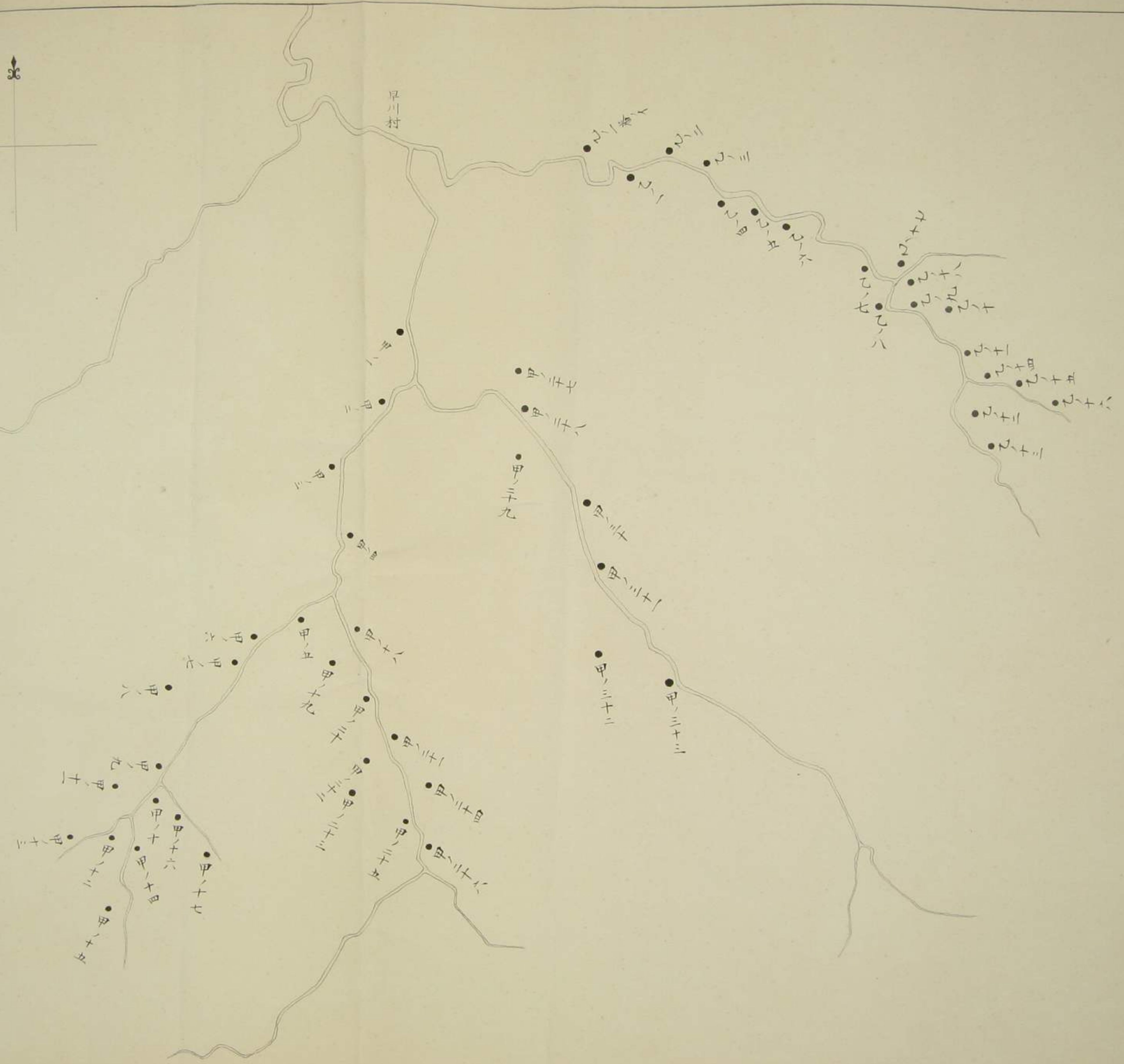
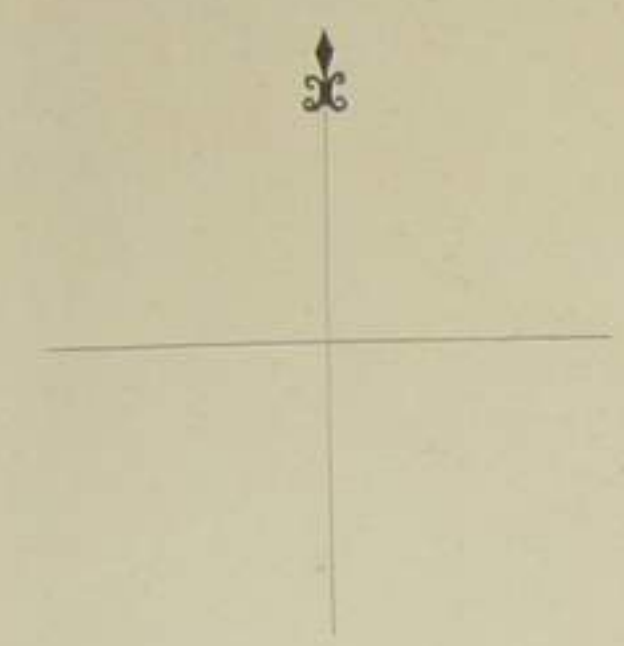
大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

石狩州多張郡又ツバラアナイ
 石炭峯号表
 牧野數江寫



大正十一年四月
 大隈侯爵奇贈

石狩州ホロナイ石炭番号表
 牧野一數江寫



大正十一年四月
 隈侯爵邸寄贈

